

久保さんへの質問 (フリースクール@なります代表)

Q1 うちの息子は自分で決めたことすら、こなすことができないのですが、フリースクールにおいていないのでしょうか？

当フリースクールの場合には、規定のカリキュラムがないため、スクールでどのように過ごすのかは、子どもたち本人が自分で考えて自分で決めていくことになります。ですが、最初から自分で決めて実行に移すことができる子は、ほとんどいません。そこで、まずは「本当にやりたいことはなにか」を一緒に考えています。周りや他の誰かに言われたからではなく、自分で考えて、自分の意思で、なにをするべきかを決められるようなサポートをしています。こうしたサポートを続けていくうちに、多くの子たちが自分の意志で物事を決め、実行できるようになっています。ですので、現時点では自分で決めたことをこなすことができていなくても、「自分が本当にやりたいことはなにかを見つけたい」という思いがあれば、フリースクールに向いているのではないかと思います。

Q2 社会に出たら好きなことだけして生きていけるケースはほとんどないと思う。周りが本人に環境を合わせてくれることはないと思うがどう思われますか？

これまで私が関わってきた、発達障がいのある子たちやフリースクールに通っている子たちは、好きなことだけをして過ごしているわけではありません。将来の目標に向けて、苦手なことや嫌だと思いうことに取り組んでいる子もいます。発達障がいの特性上、生得的に不得意なことに対して、他の子たちより何倍もの労力や時間を掛けて、努力して取り組んでいる子もいます。ですので、いま現在も社会に出てからも、好きなことだけをして生きていくようなことはない、私は思っています。

私がフリースクールを始めた15年前、それどころか数年前と比べてみても、発達障がいや不登校を取り巻く環境は、より良い方向に大きく変わってきていることを実感しています(例:発達障害者支援法の改正、教育機会確保法の施行など)。つまり、「環境は変わっていくもの」なのだ、私は考えています。ですので、周りが本人に環境を合わせてくれることも、十分にありえるのではないのでしょうか。

また、近年の環境の変化についても、いきなり大きく変わったのではなく、一人ひとりの小さな働きかけや努力の積み重ねによって、大きな変化に繋がっているはず。最初から「周りが本人に環境を合わせてくれることはない」と決めてしまう前に、自分のできる範囲から、環境を変えていくための働きかけをしてみることも、試してみる価値があることだと思います。

加えて、近年ではノーマライゼーションの考え方やダイバーシティ(多様性)の重要性も認識されてきています。なにか一つの基準に合わせた社会よりも、より多くの基準に対応した社会の方が、結果として全体が過ごしやすい社会になるのだと思います。ですので、将来的には、発達障がいのあるなしで区別をしたり、どちらか一方だけが過ごしやすい社会ではなく、区別なく双方が過ごしやすい社会環境へ変化していくのではないかと、私は考えています。

※参考

- ・「発達障害者支援法」改正、押さえておきたい7つのポイントまとめ - LITALICO発達ナビ
<https://h-navi.jp/column/article/837>
- ・教育機会確保法 - フリースクール東京シュール
https://www.shure.or.jp/wantoknow/alt_edu_low/

Q3 フリースクールでお手伝いすることはできますか？

当スクールではボランティアという形でお手伝いをしていただける方を募集しております。ホームページにあります連絡先から、お気軽にご連絡ください。

- ・「フリースクール@なります」ホームページ
<http://www.asahi-net.or.jp/~bx9m-kb/home.html>

Q4 フリースクールに通う際の費用負担、受けられる助成金はありますか？

フリースクールに対する公的な費用負担を受けることは、基本的にはできないと思います。ただし、行政と協働で運営していたり、委託を受けた事業としてのフリースクールであれば、費用負担が軽減される場合もあります。

Q5 フリースクールに通っている男女比と人数。

現在（平成31年2月現在）の「フリースクール@なります」の状況は、男7名、女0名となっています。過去には男女比として女性の方が多かった時もありましたし、全体の人数がもっと多い時や少ない時もありました。他のフリースクールに関しては、また違った男女比や人数になっていると思います。

Q6 どのような障害のある人が通っているのか？

これまでに受け容れたことがあるのは、精神、知的、発達障害の方で、その多くは発達障害の方です。ただし、障害のある方を対象に受け容れている訳ではありませんので、通っている子たち全てに障害がある訳ではありません。これまでに通っていた子たち全体の中で、障害があるという子の割合は、1～2割程度です。

Q7 私的なものですか？（運営形態）

「フリースクール@なります」は、個人で運営している私設のフリースクールです。

Q8 都区内に必ずありますか？

各区ごとにフリースクールが必ずあるわけではありません。ご希望の地域のフリースクール情報を調べる場合には、以下のサイトにある一覧をご利用されてみてはいかがでしょうか。

・フリースクール全国ネットワーク 加盟団体一覧
<https://freeschoolnetwork.jp/member>

・フリースクールガイド web 関東版
<http://fsmanavi.net/index.html>